



浦島伝説

体育祭本番モード突入

春に移行した初めての体育祭まであと9日になりました。体育の時間などでは練習を行ってききましたが、修学旅行などの行事や中間テストなどがあり、全校そろっての練習はほとんどできていません。しかし、中間テストが終わった今日から、早速全体練習が始まり、来週からは本校伝統の「朝練」も始まります。

体育祭は、保護者や地域の方に学習の成果を“見せる(魅せる)”場です。「組立体操」「ダンス」には、全員がそろった美しく、たくましい姿に大きな拍手が湧き上がります。「みんなでジャンプ」は、ここ一番の集中力で、自己最高記録を出すクラスが続出します。心がそろとうと、足がそろうことを実感します。「リレー」は、学級のためにという気持ちから、クラスの名誉と意地をかけた白熱したレースが展開されます。毎年、「中学生の一生懸命な姿に元気をもらうことができた」という地域の方々の声も寄せられています。

その一方で、生徒たちは普段の学校生活では体験できないことを“学ぶ”チャンスでもあります。それは、体育祭当日よりも、当日を迎えるまでの過程にたくさんあります。「朝眠いけど、ガマンして朝練に行く」「長縄が思うように跳べずにイライラするけど、あきらめずにみんなとがんばる」「組立体操で崩れそうになるけど、歯を食いしばって友だちを支える」「ダンスで思いっきり自分を表現するのは恥ずかしいけど、しっかり身体全体を使って笑顔で踊る」「走るのが遅くて迷惑をかけるかもしれないけど、全力で最後まで走り切る」など、いろいろな悩みや葛藤を乗り越えていくところに、人間としての成長があるのです。それらを乗り越えて迎えた当日、演技や競技を終えて拍手喝采を浴びたときに、本当の喜びや感動を味わうことができるのです。苦しい練習を乗り越えた自信が芽生え、自分自身に拍手を送ることができるのです。

その“瞬間”を味わうためにも、苦しく、厳しい練習に積極的に参加しましょう。あと一週間です。

負ける練習

柔道の基本は受け身

受け身とは投げ飛ばされる練習

人の前でたたきつけられる練習

人の前でころぶ練習

人の前で負ける練習です。

つまり、人の前で失敗をしたり

恥をさらす練習です。

自分のカッコの悪さを

多くの人前で

ぶざまにさらけ出す練習

それが受け身です。

長い人生には

カッコよく勝つことよりも

ぶざまに負けたり

だらしなく恥をさらすことの方が

はるかに多いからです。

そして

負け方や受け身の

本当に身に付いた人間が

人の世の悲しみや苦しみに耐えて

他人の胸の痛みを

心の底から理解できる

優しく温かい人間になれるんです。

人生というのは、自分の思いどおりにならないことの方が多いのです。自分の思いどおりにならないということは、ことばを変えれば「負け」です。子どもの頃から、負ける練習、失敗の練習、恥をさらす練習をたっぷりさせておくことです。そして、負けに強い人間、失敗に強い人間、恥をさらすことを恐れない人間に育ててやるのが、子どもの一生を通じて幸せではないかと思うのです。日常生活の中で、恥ずかしいこと、嫌なこと、骨の折れることは、みんなだれかが代行してしまうから、子ども自身に苦しさに絶える心の根ができないんです。じっとガマンして、あえて子どもに恥の体験をさせる、それが負ける練習です。

※『にんげんだもの』(相田みつを)から引用

来週の学校生活は体操服でOKです

来週は、7時30分から朝練が始まり、授業時間も合同体育(組立体操、ダンス)や学年団練習(長縄跳び、リレー)、全校練習(開・閉会式、部活動行進等)があります。そのため、体操服で登校し、授業や給食もそのまま過ごしてもかまいません。もちろん、汚れた場合は制服でもかまいません。